

ERCP TubeArm

～多彩な内視鏡手技のチューブ固定に～



介助者がオーバーチューブを把持している状況

- 臨床現場の課題
 - 介助者の負担
 - 長時間オーバーチューブを手で支え続ける必要がある
 - 被ばくへの懸念
 - 術者の負担
 - 介助者を常に必要とする運営上の問題
 - コストの増大



ジャバラ機構がクリップ位置を柔軟にセット

TubeArm が介助者に代わって オーバーチューブを把持

- 術者の負担軽減
- 容易なセッティング



チューブの押し・引き・回転もスムーズに実現



長時間のオーバーチューブ内視鏡手技でも術者のみで操作が可能

透視装置寝台側面に固定



チューブが長い時は、TubeArmを2本使用

写真提供施設：久留米大学病院